

2022年12月10日(土)、11日(日)

第4回 飛騨高山学会

高齢者の買い物行動に伴う 潜在的リスクの可視化

名古屋経済大学 経済学部
地域政策ゼミナール

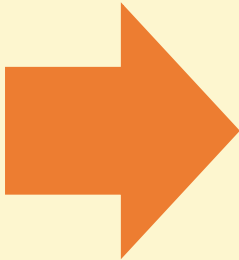
agenda

- 1.研究の背景・目的
- 2.調査の対象・方法
- 3.高山市中心市街地の現況
- 4.買い物行動リスクの分布
- 5.潜在的リスクの可視化
- 6.おわりに

1. 研究の背景・目的

- 近年、生活必需品の入手が困難だと考える高齢者が多く、**食料品アクセス問題が深刻化**。(薬師寺, 2015)
- 買い物距離の近い高齢者と遠い高齢者では栄養状態も異なり、**フードデザート問題に発展**の恐れ。(中村ほか, 2019)
- 対策する市町村は増加しているが、財政上の問題などから**具体策を取れない**市町村も多い。(農林水産政策研究所報告書より)

手間とコストのかからない対策の必要性



高齢者の買い物行動に伴う交通アクセスなど“生活環境面が向上すれば”、問題解決の糸口の1つになる！？

2. 調査の対象・方法

調査対象

中心市街地での高齢者の買い物行動に伴う
潜在的リスク（おもに交通アクセス）

調査方法

（日時） 2022年9月6日（火）

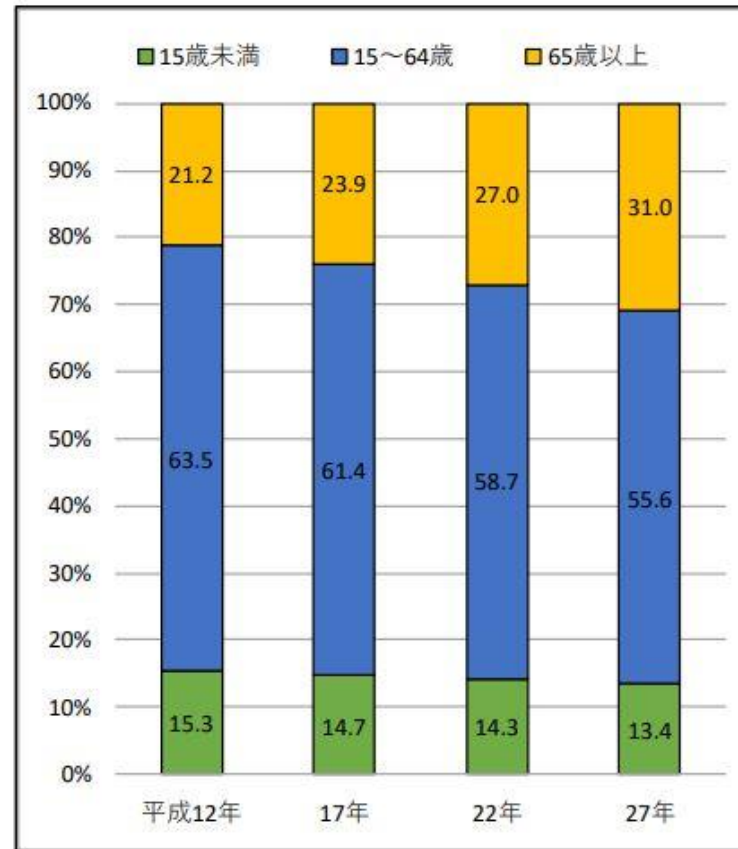
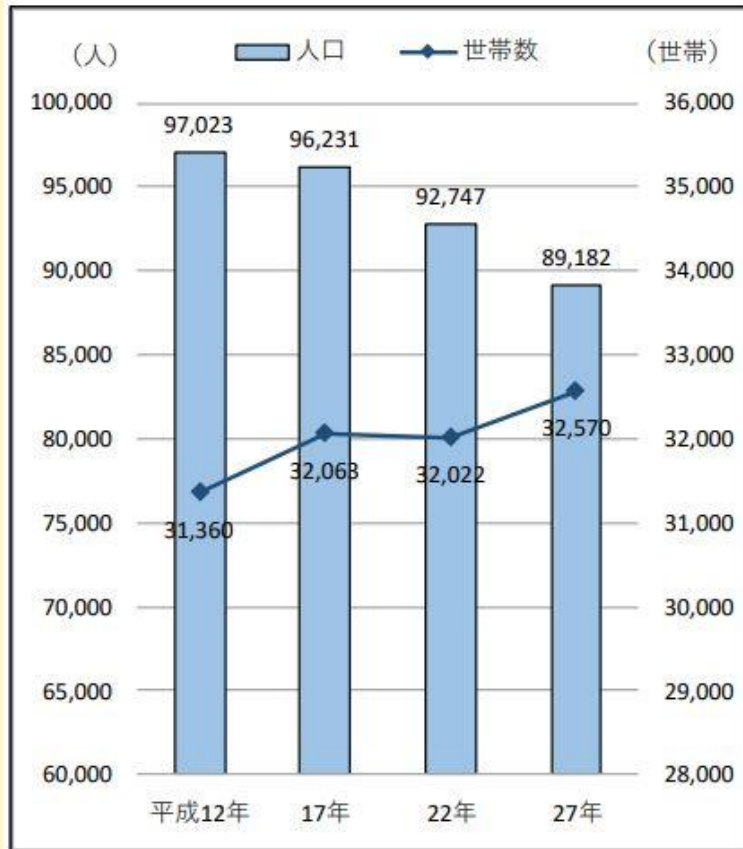
駿河屋本店、ファミリーストアさとう国分寺店を中心に、3チームに分かれて**まち歩きをしながら**リスク箇所について観察。

- ① 道路舗装状況**悪**
- ② 交通量**多**&狭隘
- ③ 視認性**低**



3. 高山市中心市街地の現況

◆ 市全域の高齢化について



データ出所：高山市都市基本計画（令和3年）

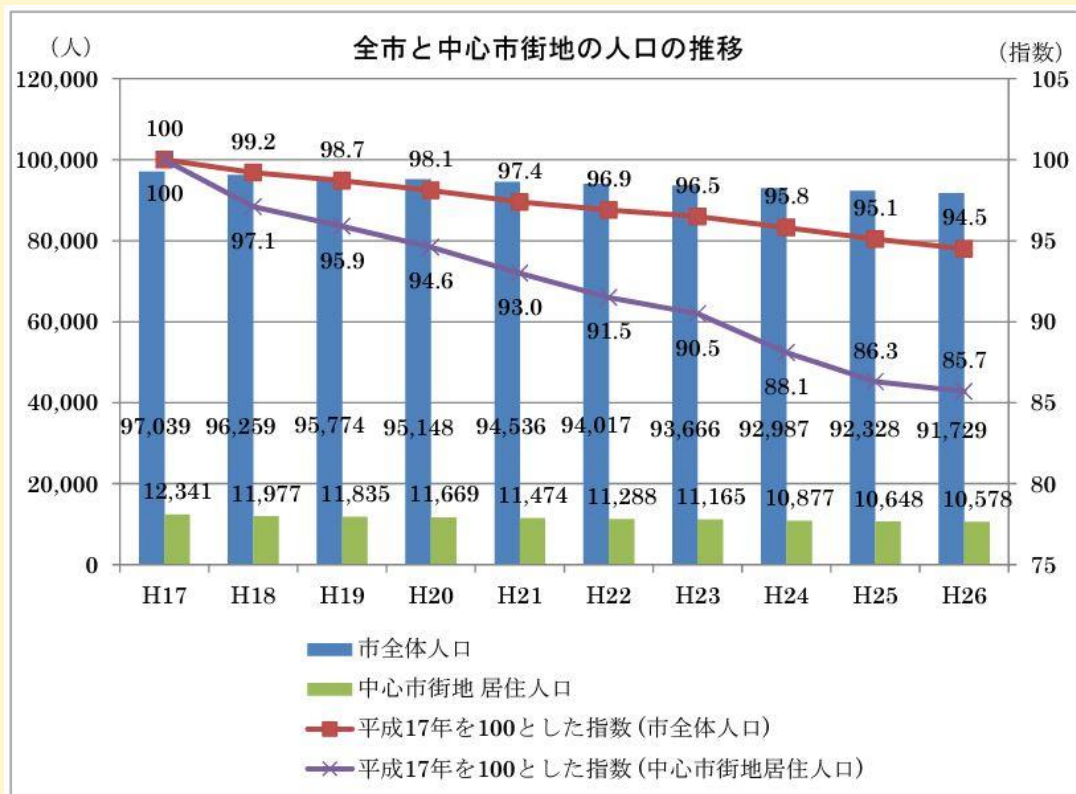
【特徴】

- 平成27年には人口9万人以下に。人口は年々減少しているが、世帯数は増加傾向。
- 年少人口は減少し、65歳以上の高齢者人口は年々増加。
- 2020年の高齢化率は33.3%まで上昇。

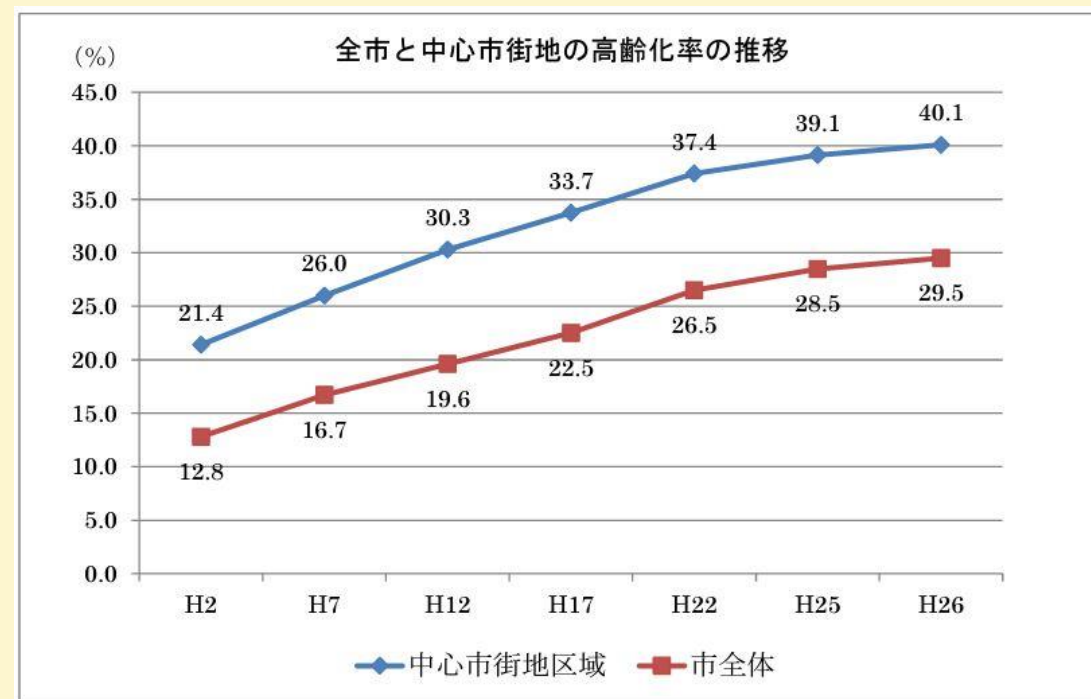


山間部を含め東京都と同等の市面積のため、全体傾向でなく部分的な検討が必要！

◆ 中心市街地の高齢化について



市全体、中心市街地ともに高齢化がすすむ。しかし、中心市街地の方が継続して10ポイント程度高い値。

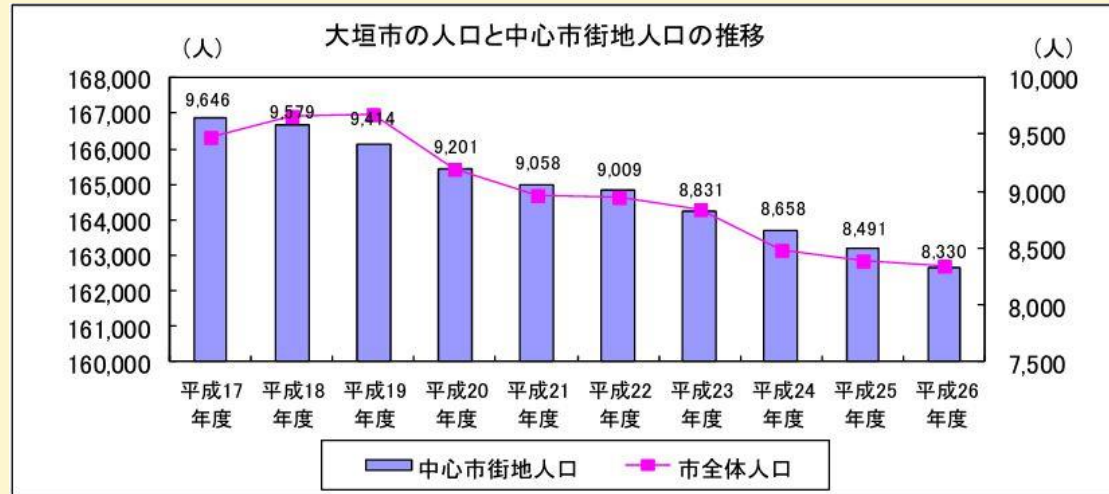


市全体、中心市街地のどちらも総人口数は減少傾向だが、中心市街地の方が急激に減少している。

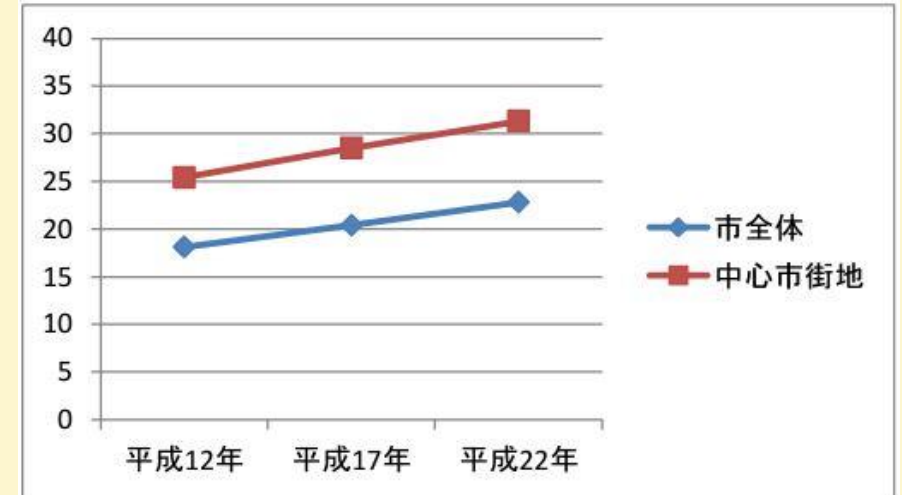
中心市街地での高齢化が課題！？

◆ 近隣市との比較

・大垣市

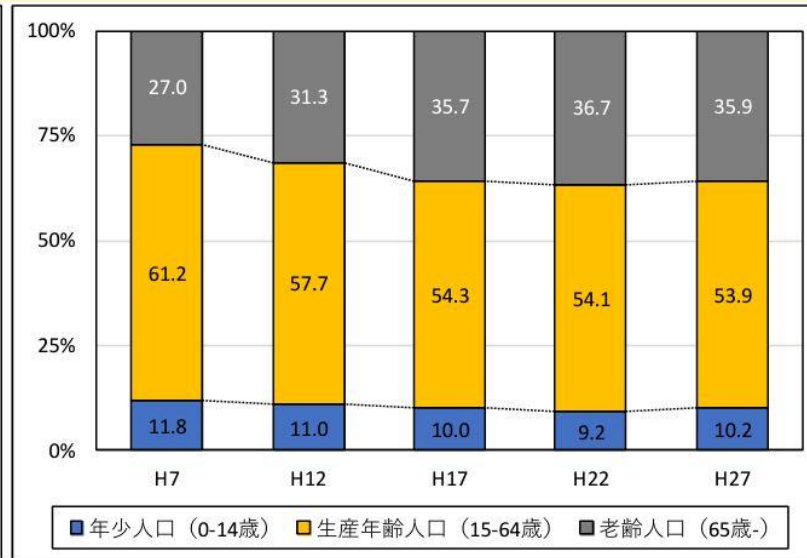
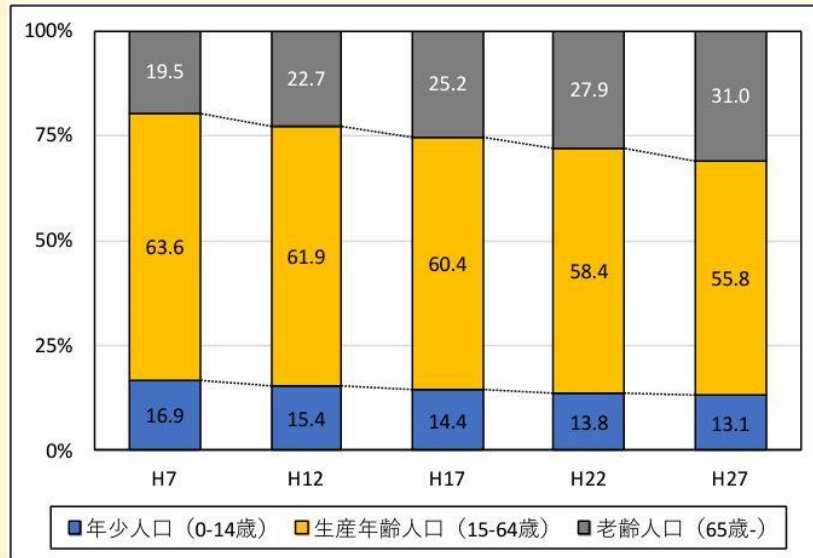


中心市街地の方が7～8ポイント高い値。



データ出所：大垣市中心市街地活性化基本計画

・中津川市



データ出所：中津川市中心市街地活性化基本計画

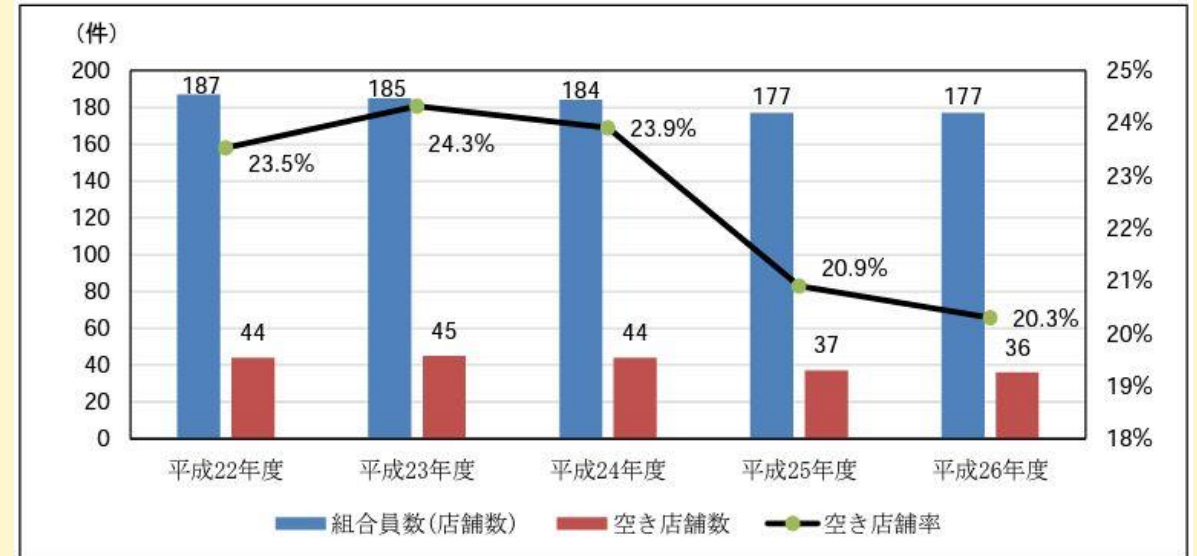
市全体、中心市街地の高齢化率はともに30～35%。地域間にそれほど大きな差がない。

◆ 空き店舗の状況

・ 高山市



・ 大垣市

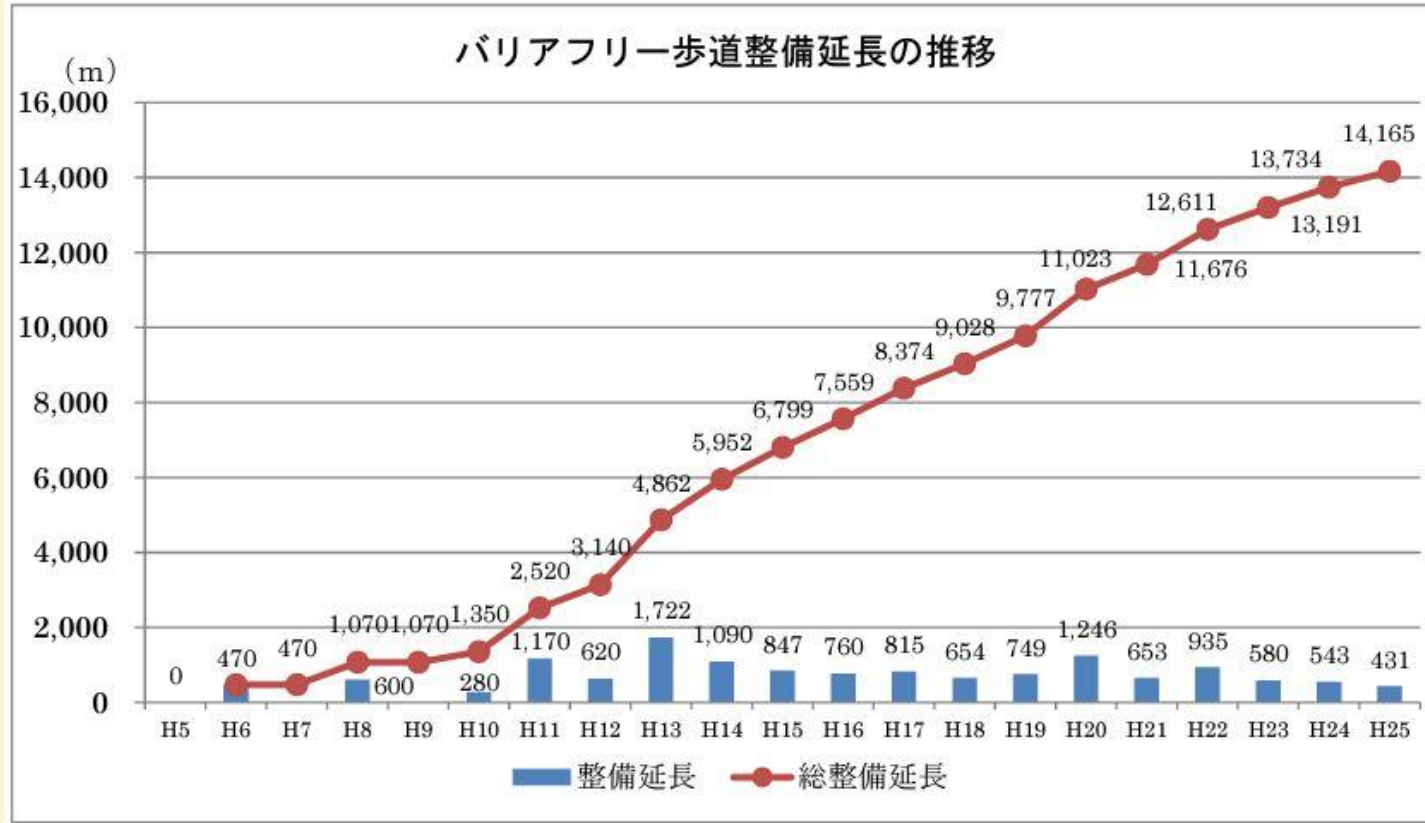


- ・ 大垣市では空き店舗率が減少しているのに対し、高山市は年々増加傾向にある。
- ・ 高山市は空き店舗の数が増加しており、営業する店舗数は減少傾向という特徴が見られる。商店街の店舗数や年間販売額も減少している。

◆ 高山市中心市街地で営業する生鮮食料品小売店

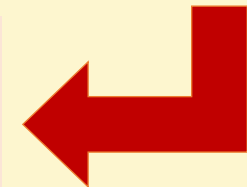
	駿河屋本店	ファミリーストアさとう国分寺店
開店	1973(昭和48)年[現在改装中]	2020(令和2)年
売上	50～60万円(一日あたり)	—
客層	地元客が9割、観光客が1割程度。 60歳から80歳くらいの高齢者が客の8割か9割。 同じ高齢者が日に2,3回来店することも。	地元客が3割、観光客が7割程度。 地元客の多くは60～80歳。
ピーク	午前10～12時、曜日あまり関係ない。	平日は夕方がピーク。土日は11～15時頃
売れ筋商品	野菜、和日配、鮮魚、PB商品、ラーメン	さとう限定のPB飛騨牛カレー、野菜、総菜
店舗の工夫	高い棚に商品を陳列しない。商品棚が普通のスーパーより低い設定。	通路を広くするなど工夫。目の届きやすいところに、詰めすぎないように商品を陳列。

◆ バリアフリー歩道整備の状況



- 平成以降、バリアフリー整備を毎年継続。平成25年には総延長が14,165mに。
- 大垣市、中津川市の計画書に言及なし。観光拠点であることも考慮した高山市中心市街地整備のオリジナリティ？

高齢者などの交通弱者にとって快適な
歩行環境づくりの詳細について実際に確認！



4. 買い物行動リスクの分布

観察して気になった箇所をピックアップ

狭隘道路がとても多い印象。その中でも特に危険を感じた道路のみ抽出！

視認性の低い交差点がスーパー周辺に点在！

道路は整備済みが多いが、中には経年劣化も！



リスク① 段差が激しい、陥没している道路



リスク②

交通量が多いわりに、道幅が狭い道路。
くわえて、歩車分離が白線のみ。

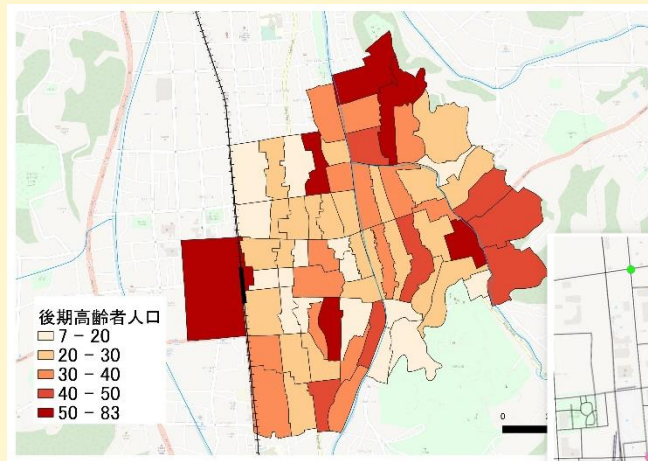


リスク③ 自動車の往来があるが、先が見通しにくい交差点など



5. 潜在的リスクの可視化

ある一定の範囲内（同心円200m）の点データの密集の程度を、ヒートマップと呼ばれる色分け図に可視化。

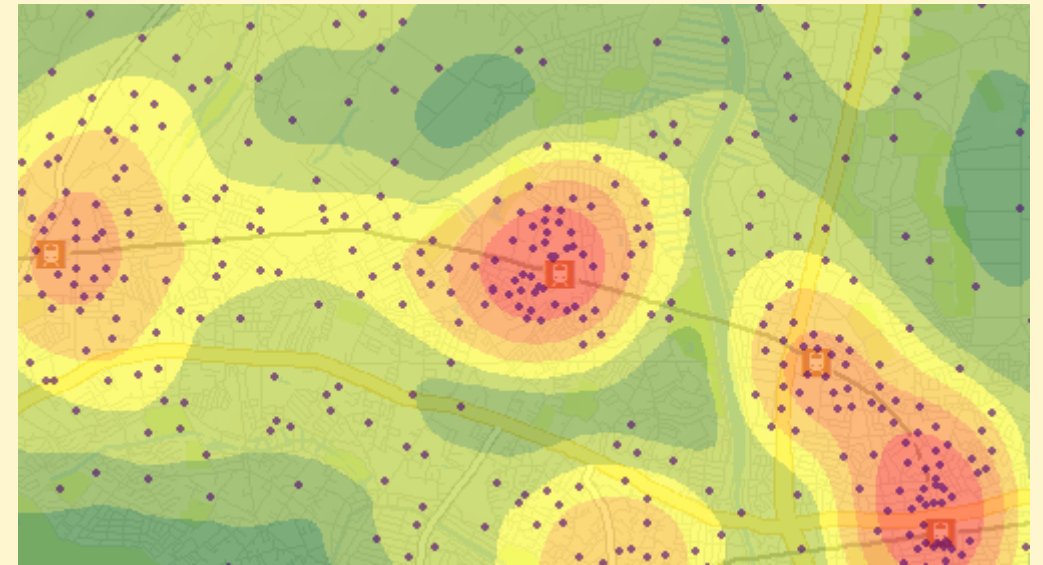


- ① 町字の重心点をもとに後期高齢者人口の密度図を作成。

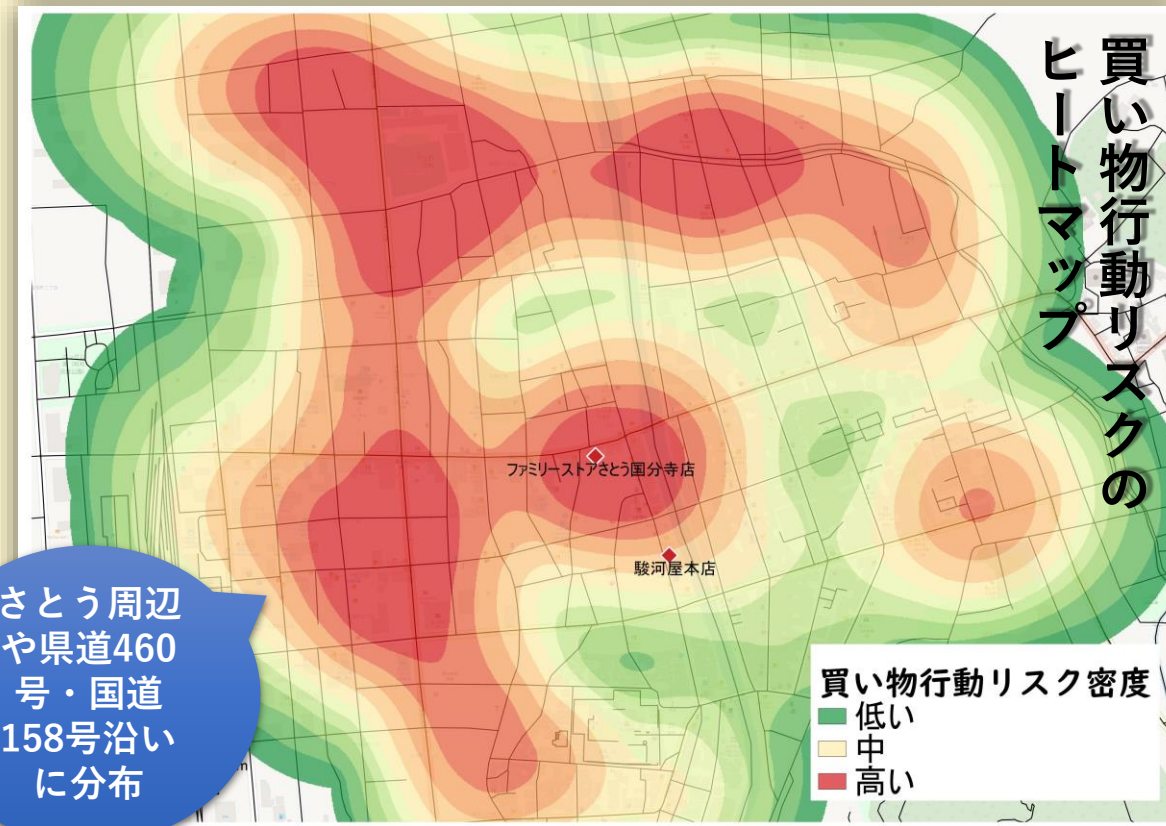
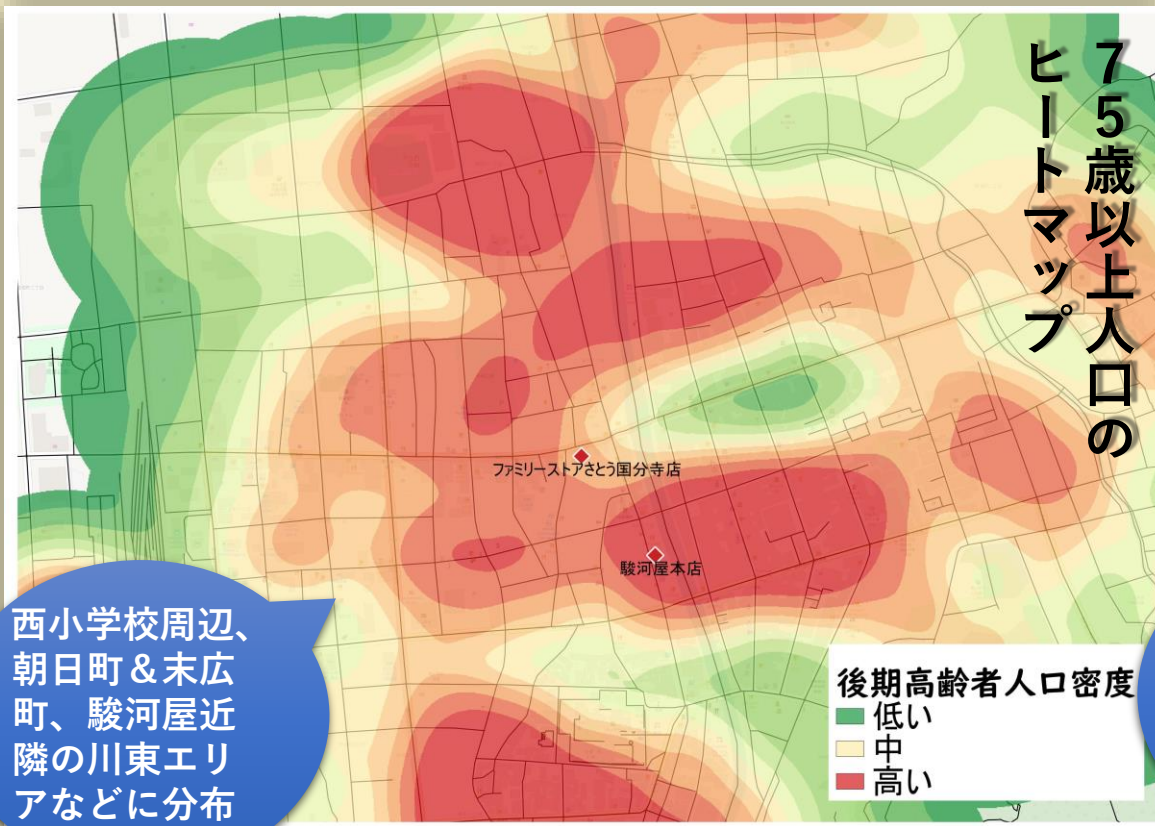


- ② リスク分布から密度図を作成する際、リスクの程度を重みづけ。

カーネル密度



ヒートマップの例



- 駿河屋本店から川東エリアに住む後期高齢者にとって、**リスク少なく**買い物アクセス可能。
高山陣屋周辺など南側からのアクセス経路上にもリスクが少ない。
- ファミリーストアさとうの北側の朝日町や末広町、下町に住む後期高齢者にとっては、店舗周辺の潜在的リスクが障害とならなければ、良好な買い物アクセスが可能。
- 西小学校周辺からアクセスするには、交通量多く狭隘な県道など**高いリスクの恐れ。**

6. おわりに

- 高山市中心市街地には、交通量が多いにもかかわらず狭い道路が多く、高齢者の買い物行動リスクを減らすためには歩車分離の取り組みが必要。
- 観光による負の影響もみられるため、観光振興と日常生活における都市環境のバランスの再検討が必要。

【今後に向けた課題】

- ・ さらに丁寧にリスク箇所を調査するためには、下見を含めもう少し時間をかける必要があった。
- ・ 現地で生活する高齢者に対するヒアリング調査も並行しておこなえば、より深い考察が可能であった。

参考文献

- 中村恵美・浅見泰司・横張真（2019）「物理的な買い物距離が高齢者の行動に与える影響」『都市計画論文集』54巻3号, pp.1365-1371
- 薬師寺哲郎（2015）『超高齢社会における食料品アクセス問題』ハーベス社
- 農林水産政策研究所「食料品アクセス問題と高齢者の健康」（農林水産政策研究所ホームページ: <https://www.maff.go.jp/primaff/seika/fsc/faccess/index.html>)